

## 2019年度「アメリカ短期留学報告書」

農学部・農学科・3学年・奥津ちひろ

私はこの9月にアメリカ短期留学プログラムでミシガン州立大学へ約2週間行き、アメリカのことやミシガンの農業、ミシガン州立大学の様々な学業や活動の様子を見学、体験させてもらうというとても貴重な経験をすることができました。このアメリカ短期留学には日本とは全く違った気候や土地を持つアメリカでの農業がどのように行われているのか、日本と違う点はあるのかを実際に見てみたいということと本場のネイティブの英語を学んでみたいという2つの理由で参加をさせていただきました。現地ではミシガン州立大学の先生であり今回の短期留学プロジェクトの現地担当者であるロンダさんに付き添ってもらい、ミシガン州立大学内の施設やミシガン州立大学と関わりを持つ地域や農業施設への案内を沢山していただき、その中で私の留学の目的を達成し、目的以外にも今まで日本では学ばなかつたような分野や、日本にはないようなアメリカの日常生活に触れることができました。これから我々が現地で行った活動について記述したいと思います。

初めにアメリカ留学の現地で行った活動行程を抜粋して簡単に紹介します。

2日目：ミシガン州立大学へ行き留学中の行程やミシガン州立大学について、そして3日目と4日目に行くトラバースシティと国立公園について学び、ミシガン州立大学の学食に連れて行ってもらいました。午後は英語の授業を受けた後にミシガン州立大学を回りながら大学のグッズショップへ行きました。

3日目：トラバースシティへロンダさんの運転で移動しました。トラバースシティはミシガンの最も北にある地域でミシガン州立大学のあるイーストランシングからトラバースシティまでは3時間ほどかかります。トラバースシティではまずBlack Star Farmという大学が関係しているワインブドウの農場へ行きました。その後Northwest Michigan Horticulture Centerへ行きました。ここではミシガン北部で栽培されるチェリーやリンゴなどの果物について研究されており、私の学んでいるポストハーベストにも関係していることもあったのでとても興味深かったです。夕方はSleeping Bear duneを一望できる場所へハイキングに行きました。



(Black Star Farm)



(Northwest Michigan Horticulture Center)

4日目：まず Cherry Republic という場所へ行きました。ここはミシガンのチェリーを使った様々な商品を生産、販売している会社で、Cherry Republic の工場にも特別に行かせてもらい実際に生産している様子を見学させていただきました。午後は Sleeping Bear dune に登り、イーストランシングへ戻りました。



5日目：ミシガン州立大学のキャンパスツアーを生徒の方々に案内してもらいました。日本とは違い大学全体が広大な土地で一つの町のようになっているため一通り回るのにもとても時間がかかりました。キャンパスから少し離れた研究室が管理している畑にも行かせてもらいました。畑の様子は農大とも変わりはありませんでしたが土地が広いため一つの場所でたくさんの作物を栽培することができていてうらやましかったです。

6日目：午前中はみんなで現地の大型スーパー・マーケットやアジアン食品店に行ったり洋服屋に買い物に出かけました。午後は滞在しているホテルでバーベキューをしました。ミシガンの方々にハンバーガーやアメリカの料理を作っていただく代わりに私たちは日本料理である蕎麦や素麺、肉じゃがを作つるまいました。

7日目、8日目：この二日間は丸一日大学で授業を受けました。七日目は体調を崩してしまい参加することができませんでしたが、八日目は参加することができました。一日中英語の授業を聞くということに慣れておらず集中して話を聞かなければ理解ができないのでとても大変でした。八日目は授業の後に農大に留学に来たことがある MSU の生徒の人達とピザパーティーをしました。面白くて日本好きの子が多くとても楽しかったです。

9日目：午前中に英語の授業を受けた後に Kellogg Biological station へ行きました。ここには MSU の学生寮と Kellogg の別荘があり見学させていただきました。別荘の観光の後は Kellogg Biological station のうち酪農、長期生態学、バイオテクノロジーの 3 つのリサーチセンターを見学させていただきました。酪農は私の学科外の分野なので初めて見るものも多く、また日本のそれとはかなり違うという話も聞いてとても興味が沸きました。長期生態学やバイオテクノロジー用の作物の研究も座学では聞いていましたが、実際にそのものを見るのは初めてだったので見ることができてとてもよかったです。



10日目：英語の授業を終えた後に最終日に観戦するユニバーシティフィットサルの会場の見学をさせていただきました。試合会場は大学内にあり 7 万人の人が入ることができます。大学内の敷地のひとつとはとても思えない大きさでとても驚きました。スタジアムを見させていただくだけでなくロッカールームなどの実際に選手が使用する場所も案内させていただきとても貴重な体験をすることができました。



11日目：最後の英語の授業を終えた午後にこのミシガンで体験したこと、感じたことについて英語で発表をしました。私は特に印象深かったアメリカやミシガンの果物と日本の草ものの違いについて発表をしました。他のメンバーたちの発表もそれぞれ違っていてみんなの興味が惹かれたものや楽しかった子尾を知ることができてとても良かった。

12日目：ミシガン最終日はアメリカンフットボールの観戦をしました。試合の前にはテルゲートパーティーといって大学内でたくさん的人がバーベキューやレクリエーションをして楽しんでいました。アメフトの試合自体も日本の大学では見たことがないような盛り

上がり方で本当に7万の人が会場を埋めていてプロの試合を見に行っているような感覚でした。



これらの行程を終えて13日目にデトロイト空港から出発し帰国をしました。

このアメリカ研修で私は日本ではできないようなたくさんの新しい経験や新しい知識を得ることができました。アメリカの農業を体験するというこの留学における私の一番大きな目的はミシガン州立大学と関係するリサーチセンターを見学させていただいたり、ミシガンの特産物であるチェリーを使った商品を開発している会社の工場に行かせてもらうことなど現地の様々な農業研究施設に行かせていただくことで達成されました。ミシガン州立大学はミシガン州に10以上のリサーチセンターをもっておりそこでは作物の栽培だけでなく畜産やバイオテクノロジーの研究をそれぞれの場所で行っていました。私が特に興味を引かれたのはトラバースシティにあるCherry Republicです。ここではミシガンの特産品であるチェリーを使った加工品を製造しておりチェリーを使った加工品でありがちなジャムだけでなくクッキー、チョコレートのようなお菓子、サルサソース、ワイン、ジュース、ソーセージなどを製造し販売していました。私がここで興味深く思ったのは日本とアメリカでのチェリーにおける消費の仕方の違いについてです。日本ではチェリーは生のまま果実そのものを食べることが多いですがアメリカではほとんどそのような消費の仕方はなく、ジャムなどの加工品にして食することが基本的です。そのためだと思われますが生で食べられることをあまり考慮せず加工して使用するアメリカのチェリーは果実が小さく味も日本のものに比べて甘さが少なく酸味が強かったです。逆に日本のチェリーはそのまま食べてもらうことを意識しているので果実が大きく甘みが強いのが特徴です。このような違いは実際に現地にいってみると知ることができなかつたと思いますし自分からこういったアメリカと日本の違いを見つけることができるのでとても良い経験ができたと思います。ただ、今回は見学をするばかりだったので実際に何か簡単な作業の手伝いをさせていただくようなプログラムがあればより理解が深まると思いますし会話することで英語も学べる機会になると思うのでいいのではないかと思いました。ネイティブの英語を学んでみたいという目的はやはり二週間では多少聞き取れるようになるのが精いっぱいであまり話すことは進歩できるようにはなりませんでした。それでも二週間だけでも英語だけの世界において現地の方々と会話をすることで耳が慣れてちゃんと聞き取れるようになり、頻出される言葉や独特な言い回しも理解ができるようになれたので目的も完全に達成とは言えませんが学ぶという点で達成できたのではないかと思います。

今後の取り組みについて、私はアメリカで見たチェリーだけでなくブドウやリンゴなど果実を使用した加工品の数々にとても感銘を受けたので、日本でも栽培されている果実で生食以外の方法で食べることが少ないような果実でも作ることができそうな加工品を自分でも考えてみたいと思いました。今後研究室での活動を通してそういった分野にも目を向けて研究活動に取り組んでいきたいと思います。また、せっかく英語が少しは耳に馴染むようになったので忘れないためにもYoutubeや洋画などを見て英語に触れる機会を作り続けたいと思いました。

<アメリカに持って行ってよかったもの>

- カップラーメンやみそ汁
- 薄手のジャケット(秋のアメリカは思ったより寒い)
- パーカー、ヒートテック(寒い)
- サングラス、日焼け止め(日差しがかなり強い)
- ウエストポーチ(少ない荷物で出かける機会が多かった)
- 洗濯用洗剤(洗濯機も乾燥機もあるが洗剤は置いていない)

<用意がいらなかつたもの>

- インスタントコーヒー(コーヒーが置いてある)
- 半袖Tシャツ(寒い)
- 本(読む時間がない、荷物になるだけ)

<使用した金額>

現地で使用した金額はお土産代を含めて5万円ほど

<事前に準備、学習しておくと良いこと>

- セントの見分け方
- 話題提供をするときの文言をいくつか覚えておく
- 講義をしてもらう授業や案内してもらう場所で行っている活動について日本語で事前に知識を入れておく(英語の講義でも理解することができる)
- アメリカンフットボールのルールを学んでおく

## 2019年度「アメリカ短期留学報告書」

農学部 畜産学科 3年 加藤 大雅

私は過去に留学に行くことを考えたことがあったが英語に自信が無い事や目的がはっきりと明確ではなかったこともあり二度とも行かなかつたが、大学で二年間学ぶ中で大きく考え方方が変化し、英語力を向上させたい、直接異国文化に触れたいと思ったため留学をしようと考えたからだ。

私は大学卒業後大学院に進学し研究職につきたいと考えている。その中でより詳しいこと、新しいことを知るために論文を用いることになるが、これは英語で書かれているため読めないと将来弊害になってくるだろう。また、自分の研究の発表や意見を述べたい場合にも英語力が必要になると考える。だから英語力を向上させたいと考えた。論文を読む英語力すなわち読解力は、日本でつけることが出来るが、意見を交換する英語力すなわちコミュニケーション力を特に向上させることを目的として留学した。直接海外に行き英語でコミュニケーションをとらざるを得ない状況を作る事で現地の速いスピードでのリスニングに慣れ、自らのスピーチもより自然なものに近づくことが出来ると考えたことや、より身近に英語を使うことでコミュニケーション力を向上させることが出来ると考えたため現地でしかつけることが出来ないコミュニケーション力があると思ったからだ。

畜産学科の三年生であるが二年間畜産を勉強してきた中で驚いたことの一つは家畜の育て方に基本はあるものの畜産は気候や土地等の環境のもと行われるものなので絶対的な正解は少なくその土地、環境に合わせて工夫を行わなくてはならないということだ。また、座学で学ぶことより農場で実際に見て直接感じたほうが多くのことを学んだことからも直接海外に行き環境、文化を自分の肌で感じることで多くのことを学ぶことが出来ると考えた。以上が留学の目的である。

英語力の向上について現地では、休日以外ほぼ毎日午前中は English Language instruction で英語の授業が行われた。この授業では日本の高校や大学で行われるようなものとは違い留学中の生活で使えるイディオムを中心にならった。またイディオムも「Home、House」「Hand」含まれるものといったように毎日異なる単語メインに講義が行われた。この授業で学んだイディオムは留学中に施設の見学中、他の授業やテレビなどで使われることもあり即効果があるのが分かったので積極的に受けすることが出来た。また、自由時間にはスーパーや外食などに買い物に行くようにし定員にオススメなどを聞いたりすることをこころがけた。また、講義中などで分からぬ単語やイディオムがでたときは、その場で調べるか携帯などにメモしておくようにした。

現地でたくさん現地の農業や文化に触れる日程となっており貴重な経験が出来た。トラバースシティは特に良い経験が出来た。Black Star Farms では山の斜面一面に広がるブドウ畑を見ることが出来た。ミシガン州の中でも北の方にあるトラバースシティの夏は暖かく、冬は寒いそして乾燥している気候をうまく使い生産しているのがよく分かった。またブドウ畑は列をなして斜面に植えてあるのだが、虫や鳥がその列と列の間から入りブドウを食べてしまうことを避けるためにネットをつけるのは日本でも見られる一般的な方法だが、ブドウの列の入り口にハーブや虫の好まない植物を植えることで被害を少なくすることが出来、農薬等を散布する量を減らすことが出来る方法を取っていた。この方法はブドウを食べられる等の被害から守ることがメインであるが、畑の端のハーブや花が農園をきれいに見せている点が私は非常に良い点だと感じた。また、農園にはワインを製造す

る工場とワインを飲むことが出来るレストランが併設されておりビジネスの面からも6次産業化が成功しているところが参考になった。同様にトラバースシティの気候を利用したチェリーの農園を見る事もできた。ミシガンではチェリーが名産でありチェリーソーダやチェリーを使った製品をよく見ることがあったが日本人が想像するチェリーとは少しちがった。日本のサクランボは甘く、少し高いものが多いがミシガンのチェリーは安価ですっぽいものが多いことが分かった。これは農園を見ることで分かったが大きな土地に大量のチェリーを植えておりこの収穫はマシーンを用いて行うことも分かった。このマシーンは木を揺らしチェリーの実だけを落としコンベアーが集めるといったものである。日本の手間をかけてより質の良いものを作り、プレミア感を付け高価に売る農業に対しアメリカの機械化を進め大規模な土地で安価でも大量に作り利益をあげるモデルを目の前で見ることが出来た。Cherry Republicというチェリー製品やジュース、ワインや食事を楽しめるお店にも行くことができたがここでは、農業の経営の話や製品の話を聞くことが出来た。中でもチェリーを用いた製品の工場を見学させてもらえたがその中の作業を見せてもらえるのは非常に楽しく学ぶことが出来た。またこの地域では1週間の間チェリーの祭りがあるらしく私たちが行ったときは終わっていいたがそのくらいその地域にチェリーは根付いていることも分かった。MSUのウシを飼っているところは畜産学を学んでいる私には非常に勉強になった。まず日本の畜産の現状として小頭数で飼っていることが大半である。しかしアメリカの畜産は非常に大規模であり日本に比べ機械化が進んでいるのが特徴である。以上のことと予備知識として知っていたが牛舎等を見てみると想像以上であった。まずウシを放牧するのだが、牧草がなくなるといけないので放牧用の土地が4面もあった。そして日本では数えるほどしかない自動搾乳機も導入されていた。この機械はウシが自ら搾乳機に入り搾乳されるという機械だ。搾乳機にウシは濃厚飼料と呼ばれる餌を求めて入るまたは乳が張る痛みを解決するために入ってくるという話であった。また首元に万歩計と体温やえさを食べた量が分かる機械が入ったものを取り付けることでスマホやパソコンでウシの状態を管理することが出来るのだそうだ。これにより他の作業や他の事業に時間を割くことが出来るので効率化が図れることが分かった。また日本で牛舎などを想像するときににおいの問題が生じるが、この農場は臭くなかった。理由は日本であるとウシは1頭ずつ部屋のように区切られて飼われることが多いがこの農場ではつながれることなく買われていた。日本はウシの自由がないため排泄物からも逃れることができず結果としてウシ自体が汚れてしまうがこの農場のウシは汚れることがないためウシ自体も非常にきれいにおいもほとんどなかった。牛舎は臭いというのが大前提だと思っていたのでより驚いた。

英語力に関しては、現地のスピードに慣れてしまえば聞くことはできるようになったが話すことは難しかった。簡単な単語を並べれば伝わることも分かった。講義などで分からないことがあった時質問をしたいが英語で何と言えばいいのかわからず聞くことが出来なかつたときがあることが反省点だ。しかし、MSUの人たちは優しく何度も質問はないか、分かってなさそうであつたら簡単な言い方や単語に直して言い直してくれたので非常に助けられた。

ミシガンでは自らバスやウーバーを使いいろんなものを見学すること、体験することが出来た。わからないことがあっても現地の人たちに聞くことで対処できた時は自信にもなった。工場見学や農場見学はめったにできない経験をすることが出来た。大学内では普通の生徒と同じ食堂やアイスクリームショップなどを使わせてもらったが現地の人と同じ生活や食堂等で様々な人種や文化に触れることが出来、良い経験になった。また、アメリカンフットボールの試合の日にはテールゲートパーティーが行われるがこの日に多くの人と関わることが出来て非常に満足した。またアメリカンフットボールの人気や大学の生徒

たちの雰囲気を味わえた。反省点としては、疲れや時差でなかなか動けない日もあり、見たかった観光地や施設をすべて回ることが出来なかつたことだ。

今後は引き続き英語の勉強は進めていくが、今回の留学でやはり直接見る、触れることで学ぶことの重要さを改めて感じた。そのため時間や機会があればまた留学や海外に積極的に行きたいと考えるようになった。また、ミシガン州立大学の生徒の多くは積極的に何事にも取り組んでいたので見習いたいと感じた。今はラグビーのワールドカップが行われ、来年には東京オリンピックもあり多くの観光客が日本に来ることが想定される。この時にいながら英語を学ぶことが出来るので積極的に学びたいと思う。また私がミシガンにいるときは、多くの人が助けてもらい優しくしてもらったので自分も海外の人に何かできることをしたいと考える。

持って行ってよかったもの

△モバイル Wi-Fi (外でウーバーや検索するときに役立った)

△電子辞書 (講義中調べるのに役立った)

△パソコン (最後の講義で発表があるがその時パワポを使うため)

△サトウのごはん、カップラーメン味噌汁などの日本食

△リュックとは別の小さめのバック (トラバースシティや農園など行くときは荷物が多くなりリュックが重くなるためリュックは車に置き、小さめのバックだけを持っていくことで見学に集中できた。

△長袖やパーカーなどの温度調節ができる服 (ミシガン州の九月の気候は思ったよりも寒く朝は15度ぐらいだったが昼は30度くらいになる日もあったため。また天候も変わりやすいため)

用意したがいらなかつたもの

△ハンガー (現地のホテルにハンガーやクローゼットがある)

△タオル類 (これもホテルにあった)

現地で使用したお金

△食事はほぼ準備されていることが多かつたので食費はからなかつた

△現金二万円を換金していく残りはカードを用いたが行く場所はほとんどカードが使えるので現金は少なくともいいのかもしれない

次年度参加者準備

スケジュールがきつい日が多く歩くこともおおいので履きなれた靴などがよいと思う。

## 2019年度「アメリカ短期留学報告書」

農学部・動物科学科・1学年・吉田隼人

### 1. 当初の目的

私はこのアメリカのミシガン州立大学短期留学に参加した目的は、今まで日本での農業について学んで他の国の農業についてはそこまで詳しく学んではなく実際に自分の目で見て学ぼうと思ったことと日本にいただけではわからない文化や風習などを実際に体験したり、街並みやその国独特の自然などを見たいと思い立ったからです。この短期留学を知るまでは自分で夏休みなどを使い自分で農機具の展示会や畜産に関する大会などを見に行こうと考えていたが今回の短期留学を入学式のパンフレットと一緒に同封されており、見ると多種多様のプログラムがありその中でもアメリカのミシガン州立大学のプログラムを見ると動物についての講義や農場見学など様々な農業プログラムの他に英語の授業や短期間でのミシガンの観光など多くのプログラムがあり、当初の海外の農業を学ぶことやその国の文化や街並みなどを見ることなどできると考え参加しました。

また、今回のプログラムが始まるまでに何回か参加するメンバーと同伴する先生とのミーティングの中、大学内で講義するときをイメージして各メンバーが調べたプログラムで行く施設や場所の英語での紹介に対して一人一つ質問して講義を受けた際に質問できるようにする練習や自己紹介などの練習をしたのでこの練習を活かして実際に質問できることや現地の学生や先生とのコミュニケーションも目的にしました。

### 2. 目的のために現地で活動した内容

まず初めに成田空港の集合場所に時間に集合し飛行機に搭乗し11時間ほど飛行機に乗ってデトロイト空港まで向かう。出国の際の手荷物検査でバックに入っていたパソコンや電子辞書などを出さずに検査に出してしまったために一回止められてしまったが二回目は問題なく通過することができた。今まででは国内線の飛行機は乗ったことがあったが11時間も飛行機に乗ったかとがなく心配だったが飛行機内では二回の食事と一回のおやつが配られ各席にモニターがあり映画や音楽が見たり聞いたりすることができたが、行きの飛行機はほとんどの時間寝ていた為ここまでつらくもなくデトロイト空港に到着することができた。

デトロイト空港に到着後入国審査では入国審査官に行く前に簡単な審査の機械があり、その機械が途中で故障し発見しなくなつたため少し時間がかかってしまったが無事入国することができた。入国後は今回のプログラムで一緒に行動するミシガン州立大学のロンダさんと合流しホテルまで移動することになった。

まず初めに、移動中に感じたのは車のハンドルが左ハンドルで駐車場のゲートの機械も左に設置されており、ここで自分は本当にアメリカに来たことを実感しました。そ

して移動中の風景で日本では高速道路などは反対車線や車線の端に壁がありのに移動中の道路には壁や仕切りではなく反対車線との境は何もなく周りは森林や畑が向こう側まで広がっていました。また、道路には等間隔で様々な会社の広告がありました。

空港から 1 時間半ほど車で移動すると今回のプログラムで泊まるホテルの「TownePlace Suites」に着き一日目は終了しました。ホテルにはキッチンが付いており他の人は 2 人部屋だったが自分は一人部屋で自由に使うことができた。



2 日目の朝は時差ボケでしっかりと寝る事ができるか心配だったがじっくり寝ることができ朝の 6:30 からホテルの朝食を食べることができ自分は帰国するまで朝は卵とパンとベーコンかハムを食べていました。

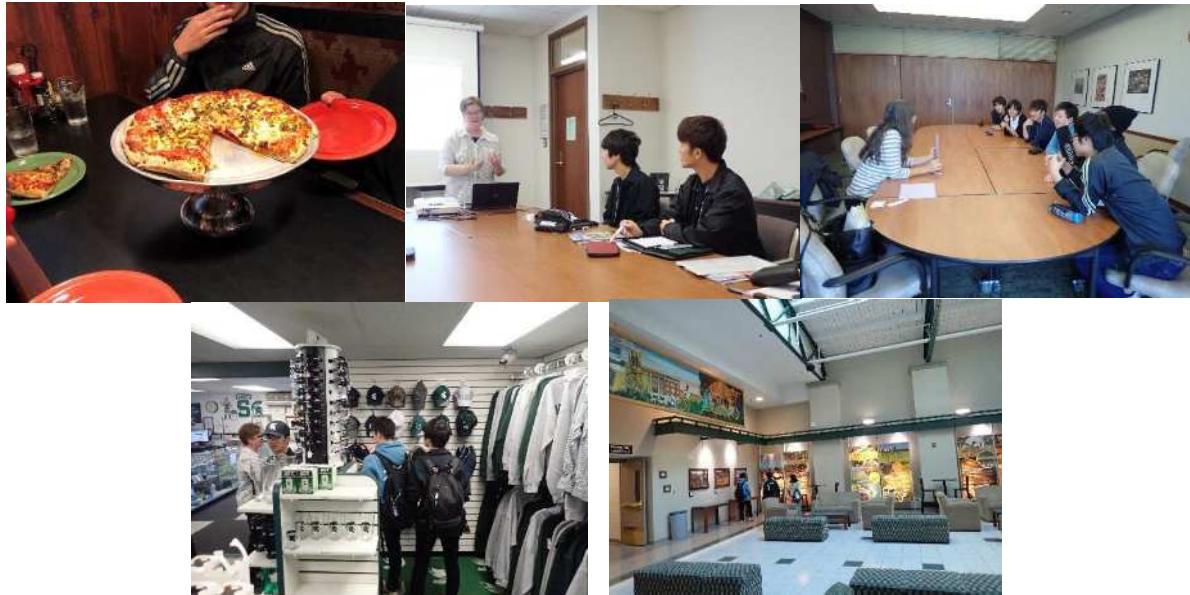
2 日目はまずロンダさんの事務所がある建物まで行くことになり一応大学の近くだったので歩いて移動するのかと思ったら車で移動して 5 分ぐらいかかるぐらい広い大学で建物まで行くと、まず初めに今回のプログラムのミシガン州立大学についてとアメリカの国立公園と天然資源についての講義を聴きました。大学については大学内の男女比や創立した年などや大学内での掛け声など様々なことを教えてもらいました。また国立公園の講義ではアメリカ全土の国立公園や国土の森林の割合など様々な内容の講義をしてもらいました。

その後キャンパス内の食堂でお昼を食べるため移動すると中は 4 種類ぐらいのお店の様なものがありその他にサラダバー ソフトドリンク、アイスクリームやケーキなど様々な食べ物がありそのすべてが食べ放題で厚木キャンパスの学食とは違い席の数も多く驚きました。

お昼を食べた後は初めての英語の授業で最初の授業では自己紹介もかねて、クイズ形式の自己紹介を行った後に今後の授業内容の説明をしてもらい終わりました。

この日の授業が終わった後に MSU のショップに行き大学の服や帽子などを購入した後、スーパー マーケットの「meijer」という大きなマーケットに連れて行ってもらいホテルで必要なお水や飲み物、ホテルの中で食べる食べ物などを買いホテルに戻りました。

その後、今回の男子メンバーで近くのピザ屋に行き大きなピザを一枚頼み食べたんですが、2切れだけ食べましたが日本のピザとは違い生地の厚さが1cmほどあり2切れだけでおなか一杯になるほどでした。



3日目では車で三時間ほどかけてミシガン州のTraverse Cityに向かいまず初めにワインのブドウを栽培して自家製のワインを作っている「Black Star Farms」という農場ではワイン用のブドウを栽培からワインの製造まで行っており、またワイン製造で出たブドウの皮を使ったピザや式場やバーなどを作りその農場で作ったワインなどを出すなど農場一つで一次産業から三次産業まで行う完璧な六次産業でした。見学した後はこの農場のピザとぶどうジュースを飲みました。

次に向かったのが果物などを調査している「Horticulture Research Center」に行きそこで調査していることや研究所が所有している農場をトラクターで移動して案内してもらい、そこでは主にリンゴの調査とチェリーの調査をしていました。またその研究所でとれたチェリーを使ったジュースをもらいました。

そしてこの日の最後に向かったのはミシガン湖とスリーピングベアを一望できるところに行くためにハイキングコースの入り口に向かい片道15分ぐらいを解説付きのマップをもって歩き目的地まで行くと景色はよく湖とは思えないほど大きく地平線まで広がっており驚きました。

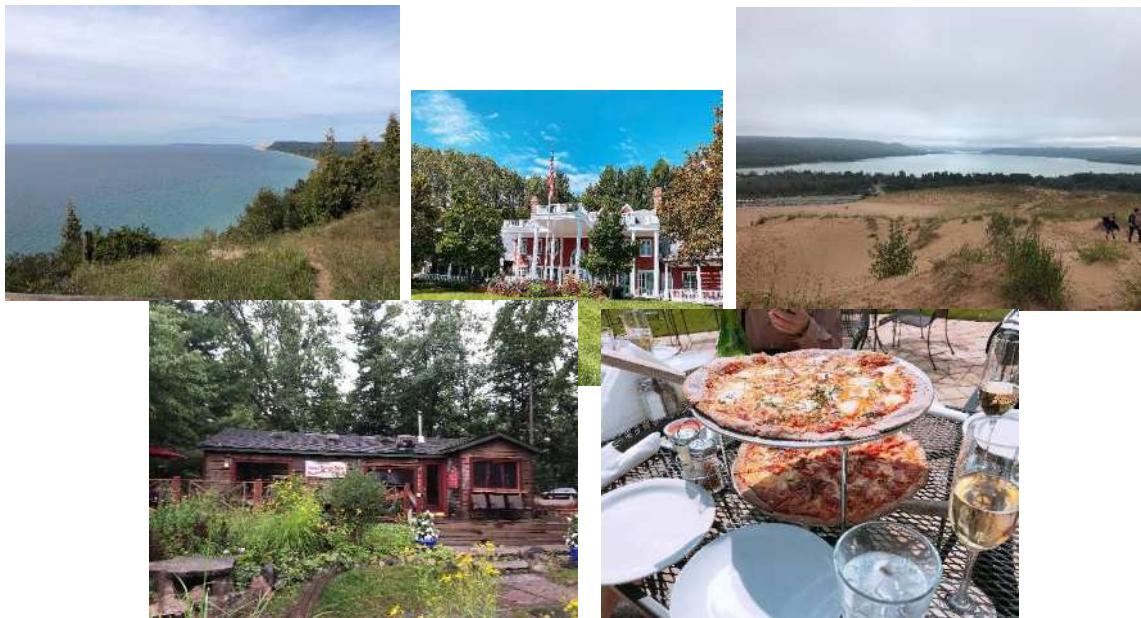
その後 Traverse City のホテルに向かいチェックインした後自由時間になり夜ごはんもかねて地域のレストランに行ったあと地域のお土産などを見に行き三日目は終わりました。

4日目の初めは3日に立ち寄った場所にスリーピングベアの小さな博物館があるVisitor Centerに向かい、その中で展示物とシアターでスリーピングベアについてのムービーを見ました。

その後また十分程度車で移動したあとミシガンで名産のチェリーを使って様々な商品を作っている Cherry Republic に行きました。ここではチェリーだけでバーベキューソース

やマスター、チョコやお酒ジュースまで様々な商品を一つの物から作っており、お客様もたくさんおり、このお店のオーナーの Jason さんに隣接しているレストランでご飯を待つ間にこのお店の成り立ちや同経営していくかを話してもらい、頼んだサンドイッチにもお店で作ったマスターを使ったソースがおいしく帰りにお土産として買いました。その後オーナーの Jason さんが工場に来て見ないかと言われ見に行くと様々な機械でクッキーやソース類などを作っており、その材料に使われるチェリーを食べさせてもらうなど様々な体験をしてもらいました。

その後砂丘に上った後にまた三時間かけて East Lansing に戻りました。



まず5日目は朝に MSU の生徒に MSU 内を案内してもらい図書館や時計塔を見に行ったり、その中でも MUS の学内にある Spartan stadium は予想以上に大きく驚きました。また 6 日は一日自由時間でしたが連日色々な場所に回ったために 6 日目は一日ホテルで疲れを取っていました。

7 日目 8 日目はどちらとも講義がメインの二日間になっており、7 日目はまず初めにバイオテクノロジーについての講義を受けた後にお昼を食べ午後からは Shadows tour と書いており最初はどんな内容かわからませんでしたが実際向かうと MSU 内の木々の管理や調査に加え木を使ったグッズを制作するチームの名前が Shadows という名前でした。

その後、Dairy Store という大学内にあるアイスクリーム屋で十種類近くの味のアイスクリームがあり、その後裏の加工場が見える二階に行きガラス越しに見ながらその責任者の先生に講義を受けました。

8 日目はまずアメリカでの乳牛と肉牛の経営についての講義やアメリカの歴史の講義その後に MSU に勤めている日本人の先生に来てもらい人間文化についての講義を受けた後に今年の 7 月の終わりごろに東京農大に来た学生さんたち数名と交流しピザパーティーや学生さんが作った日本の動画を見させてもらいました。学生の皆さんにはとてもフレンドリーで日本語が上手な学生さんもあり驚きました。

この日はまた大学をでて Kellogg Biological Station でお昼を食べ、屋敷を見せてもらった後に MSU の牧場や農場を見学させてもらいました。

MSU の牧場はそこまで頭数はいませんでしたが搾乳ロボットが 2 台もありまた飼料を栽培する農地が驚くほど広く驚きました。また農場ではブロックごとに栽培している作物や植物を変え最新の機械で調査をしていました。



10 日目は朝に英語の授業をした後に数時間自由時間があり、その後に Spartan Stadium のツアーで普段は入れないアナウンス室やロッカールームなど様々な部屋に案内してもらいました。

この日にはまた英語の講義をした後にまた自由時間になりそこで大学から少し外れたところにあるショップによりお土産や服などを買うことになりました。その後、ロンダさんと合流してこのプログラムのまとめとして英語でロンダさんにアメリカに来て驚いたことや学んだことをスライドにして発表しました。

12 日目にはフットボールの試合を見るため MSU の服を着てまず初めにテールゲートパーティーでハンバーガーやケーキを食べた後にミニゲームなどを行ったり、近くにフットボールのボールがありそれで遊んだりした後に、スタジアムに入場するまで周りでやっているパーティーを見た後に入場して 4 時間ほどゲームやショーを見ていましたが日本ではアウェイのチームでもブーイングなどはそこまでですがびっくりするぐらいのブーイングやマーチングバンドの凄さなど大学スポーツ規模の違いに驚きました。

最後に 2 週間泊まっていたホテルをチェックアウトした後にデトロイト空港に向かい無事 2 週間のプログラムを終わらせられました。

### 3. 自己評価

まず初めに当初の海外の農業を学ぶ点に関しては様々なプログラム内容で多種多様な講

義を受けることによって学べたと考えます。その中でも9日目に行ったMSUの牧場では今までアメリカの牧場はどこもかしこも大きく一番小さくても1000頭以上飼育していると思っていたが、実際は平均としては日本のように数十頭飼っている牧場の方が圧倒的に少ないがその中でも日本と同じくらいの規模で行っている牧場があることを知ることができました。しかし、今回の牧場は規模的には日本でもありそうな牧場だったがロボット搾乳機が二台あることや広大な牧草地にはイメージしていたものの驚きました。

また、日本でも地域愛や愛国心などがある人が多いが今回アメリカに行った際によく見た光景がまず各家にアメリカ国旗が飾ってあったりかかげてあったり、ミシガン州を移動している際もMSUのフットボールチームのSpartanのロゴのステッカーや洋服を日常的に着ている人が多くあまり日本では見ない風景で驚きました。

そして最後に、食事中に気が付いた風景が日本ではレストランや飲食店ではよくスマホやタブレットをいじりながら何人かで食事している人が多いが、アメリカで食事している途中に周りを見ているとどこを見てもスマホやタブレットをいじっている人は少なくどの人も会話を楽しんでいる人が多いことに気が付き、人間性なのか人柄なのかわかりませんがそのようなところも文化やその国の特徴なのかなとおもいました。

#### 4. 今後の取り組み

今回はアメリカのミシガン州で2週間の留学で勉強したが学んでいく中でアメリカの州ごとで農業の規模が違ったり、今回アメリカの農業を学んだことによってよりほかの国での農業を学んでみたいと考えました。また今回の留学を活かして日本で今後学んでいくときや就職した際に広い視野で考え行動することを目標といきたい。

#### 5. 持って行って良かったもの、用意が足りなかつたもの、現地で使った金額 持つて行って良かったもの

- ・羽織るもの
- ・パソコン
- ・パスポートやお金をまとめていれるポーチ
- ・洗剤
- ・ジップロック（服を入れて空気を抜く）
- ・クレジットカード

用意が足りなかつたもの

- ・サングラス
- ・日焼け止め

現地で使つたもの

約40,000円を\$に変えていったがそれはほとんど使い切った。

#### 6. 次年度以降の参加者へ、事前準備、勉強しておくべきこと

アメリカ短期留学プログラムは様々な内容の講義や見学を行うためどの学部学科の生徒でも身になるプログラムだと思います。しかし、自分の専門外の講義もあるため事前に軽くプログラム内容を確認して自分が学んでいること以外の事も学んでプログラムに臨めばより楽しく学ぶことができると思います。

## 2019年度「アメリカ短期留学報告書」

国際情報学部 国際バイオビジネス学科 2年 三橋亜門

### ① 当初の目的

今回の短期留学の目標は英語に触れるということだった。僕は高校の時から英語が苦手で今まで英語の学習から逃げてきた。もうなにもしなければこのまま英語から一生逃げ続けると思った。やはり苦手なものいくら考えても苦手だ。一度現地にいき英語を肌で感じることで英語への苦手意識が少しでもなくなることに期待した。だから今回の短期留学の目的は現地の英語に触れることで英語への苦手意識をさげ意欲や関心をあげること、つまりは現地の人とできるだけ触れ合うことだ。

### ② 目的達成のための現地での活動

現地の人とできるだけ触れ合うことを目標にした僕の短期留学は空港から始まった。デトロイト空港に着いた時点で国の違いを実感した。観光客用にゆっくりと話してくれる英語でさえ普段聞き慣れない僕からしたら驚くべき速さだ。入国審査は最初の難問だった。今まででは英語に対して受け身だったが、今度はこちら側が伝えなければならない。一般的な語学力があるひとからすれば造作もないことだが僕にとってはなかなか厳しいものであると同時にここで初めて英語に触れた。そして一つ気がついた。入国審査は無理に話さなくても言いたいことがなんとなく分かればそれに対する資料があればそれを見せれば問題ない。別に話さなくても伝えることはできるのだと実感した。そこから無事アメリカに入国し、ホテルに着き1日が終わった。僕の目的を達成させるには手っ取り早くガイドの人やホテルの受付の人など出会った人に話しかけることだ。これを念頭に置き、アメリカでの生活が始まった。初日にこれから少しの間勉強する大学にいった。あまりの大学の規模の大きさに驚きを隠せなかった。もう一つの町である。大学内に信号や車がとおり建物から建物に移動するのにバスが必要なのである。また、学食も5つあり、一つ一つが日本でいうショッピングモールのフードコートのようだった。しかも7ドル払えばバイキング制で好きなもの食べ放題である。高カロリーなピザやハンバーガーが山のようにある。これはかなり太る。学食とは別にアイス屋もある。大学内のアイス屋だからといって、見くびってはならない。日本でいう自由が丘や下北沢といったおしゃれタウンにあっても違和感がないレベルである。ただ驚くのはまだ早い、そのアイス屋の裏に大きなアイス工場があり学生がアイスの研究をしているのである。そして、そのアイスの元となる牛乳さえも大学の農場の牛から作られている。完全に自給自足である。日本では企業提携しなければ成り立たないものをすべて大学一つの力でやる。同じ農業大学でもアイス一つでここまで

規模の大きさに違いがあることに痛感した。大学内でもたくさん驚かされたが、大学外でもたくさんあった。特に印象に残ったのはトラバースシティーのサクランボ工場の見学だ。トラバースシティーはアメリカでもサクランボの産出額で有名だ。ただ僕が一番驚かされたのはサクランボの商品加工の種類の多さだ。チェリーショップがあったのだがすべてに対して全部サクランボが使われている。しかも日本の強引なご当地キャラのゴリ押しや〇〇味でその味に寄せたりなどの小賢しい手法ではなくしっかりとサクランボを使っている。チョコレートやグミからジュースや酒、サルサソースまでサクランボが使われていた。サルサソースにまでサクランボが使われているのは衝撃であった。甘いものにならわかるがしょっぱいものに応用した。アメリカンチェリーは本来の味だとあまり甘くなくそれ故に甘くするには大量の砂糖が必要でチョコやケーキやクッキーにしかできなかったのだが、甘くないのならしょっぱいものを作ろうと考えバーベキュー味のサルサソースができたらしい。弱点をプラスに変える逆転の発想は素晴らしいだった。またジュースもシンプルなサクランボジュースだけじゃなくジンジャエールやコーラで割ってみたり、クリームで甘くしてみたりと 7 種類もあった。話を聞かせてくれたオーナーはこのほかにも 200 以上もアイデアがあると僕に教えてくれた。また当初予定してなかつた工場見学もさせてもらった。チェリー工場で本来のアメリカンチェリーの味を試食させてもらったがかなり酸っぱく苦かった。オーナーは日本のサクランボは甘いから加工しなくてうらやましいと言っていた。ただ甘い故に日本のサクランボはサルサソースにできない。というかする必要がない。だからだろうか、同じサクランボをこれまでかといろんなものに使用し幅広い多様性に感動した。今まで自分の中にあったサクランボは加工されても甘いものになるという固定概念を覆された。また、ブドウのワイン工場でもブドウの皮でピザを作ったりしていた。これも同じように驚いた。また違う意味で驚いたのはスリーピングベアとそこから見える湖だ。とにかくでかい。湖とは思えない大きさだ。しかも湖なので淡水で塩がないらしい。スリーピングベアは砂丘でそこから見える湖は絶景に尽きる。これがトラバースシティーで僕が拙い英語力で聞き取りわかったことや見て感じたことだ。トラバースシティーでは主に聞くことがメインだった。というか聞くことしかできなかった。何度も聞いていくうちに少しずつ自分からも発言できるようになった。アメリカのひとはフレンドリーで知らない人でも気軽に人に話しかけている。道行くひとに話しかけられることなどよくある。おかげでそこでも英語に触れ合うことができた。最初はおどろいたが最終日近くになったときスーパーで今日の夕食何がいいか知らない人に相談できた。あと、最後にみたアメフト観戦もなかなか楽しかった。試合の日は 1 日パーティーが行われて大学内どこでも「go green」といえば「go white」と返ってくる。自分のチームの応援の熱の入り方は日本の比ではない。あるときは叫びあるときは踊りあるときは泣いていた。僕も気づいたら感情むきだしで応援していた。たぶん、今回の留学でいろんなひとからいろんな話を聞いたが理解できたのは 5 割未満だ。だが、半分以下でもこれだけ多くのことが知れた。

### ③ 目標達成度の自己評価

今回の留学を経て英語に対する苦手意識はなくなった。多くの人と簡単な会話はでき、英語への興味も湧いた。最初からあまり大きな目標ではなかったせいか達成はできたと思う。だが同時に自分の言いたいことがあまり言えない初めての窮屈感を味わった。向こうの現地のひとにはできるだけ多く関わったがやはり自分の語学力のせいが決まった会話しかできなくなる。僕は自分で言うのもあればコミュニケーション能力は人並みにはある。だから自分の好き嫌いを別として大抵の人とは仲良くなれる。だが、そもそも話せないとコミュニケーションは築くことができない。少し話せても留学のひと止まりだ。友達にはなれない。僕たちと日本に短期留学し興味を持った学生との交流パーティーがあった。そこでシドニーという18歳の女子学生と出会った。彼女は社交的で映画にできそうな絵に描いたようなアメリカ人だった。目を輝かせながら日本について聞いてきたり、すぐハイタッチしたり向こうのひとでも通じないよく分からぬ言語を教えてきたり、一言で言うなら彼女は自由だった。そして僕は彼女を憧れ仲良くなりたいと思った。だが、いまの自分の語学力だと自分のことを全然相手に伝えることができなかつた。このとき英語を初めてちゃんと勉強しようと思った。

日本のひとは自分の感情を隠すことを美德とするがアメリカのひとは感情むきだしではつきりものを言う。僕は今まで言いたいことは押し殺し周りに合わせる人間だった。ただアメリカは言いたいことさえいえる英語力さえあれば受け入れてくれる。今回の留学では言葉が話せない不自由さを体験したがそれと同時に話せた時の発言の自由や楽しさの可能性を感じた

### ④ 今後の取り組み

話す英語をこれからはしっかりと習おうと思った。言いたいことがいえないのは本当に不便だ。今回の留学では言っていることを理解するのもままならないので相手が何を考えているかなど考える余裕もなかった。英語を習う足がかりには今回の留学は必ずなつた。僕は今度しっかりと準備をして必ず長期でいこうとおもう。

### ⑤ 持ち物や金額、今後の要望について

#### ・金額について

手持ちで300ドル あとはクレジットカードで払った。基本ドル札のほうは食事代に使った。カードは服などお土産を買った。カードでは約5万円分使った。日本のブランド物がアメリカでは約半額なので服は多く買いがちである。ただ食費も学食パスが貰えるからふつうにすれば2万ちょいで収まるとおもう。

#### ・荷物について

まずひとついえるのは行きの荷物は必要最小限でいい。僕はあまりにも楽しみで行きにキャリーケースに隙間なく詰め込んだら帰りお土産や現地で買った服がバックに入らず預ける用の荷物のバックも現地で買う羽目になった。洋服は2泊3日程度で大丈夫だ。ただ、9月は寒いから厚手のロンTやパーカーをおすすめする。薫いがいは全然現

地調達が可能だ。あとレトルトの日本食も余裕があれば持って行くことをおすすめする。日本食が恋しくなることもあるし日本食を現地の人に振る舞うときとかにかと便利だ。

- ・要望

ホテルがすごくよかったです。あとこの 4000 字レポートだがパワポやビデオ作成のほうもいいと思う。4000 字は堅いし、やはり感じたことは写真やビデオの方が伝えやすい。レポート言われるとどうしても書く内容が限定され思ったことが素直に書けない。今回なるべく堅くせず自分の思ったことを僕はそのまま書いてみたが難しかった。ミシガン大学の日本へ短期留学した学生は 4000 字レポートの代わりにビデオ作成だったが、一つ一つの作品が完成度も高くいろんな視点での日本が見れて面白かった。留学生の本当の意見はビデオの方が反映されやすいと思う。

⑥ 来年の参加者が必要なこと

- ・電子辞書
- ・積極性
- ・素直に楽しむこと
- ・薬

## 2019年度「アメリカ短期留学報告書」

生物産業学部・北方圏農学科・2年・守屋州人

### 1. 当初の目的

私が、今回のアメリカ短期留学プログラムに参加した目的は大きく分けて2つある。1つ目は、東京農業大学オホーツクキャンパスと同緯度地域にあるアメリカの農業や経済事情を自らの目で確認し、北海道との違いを発見したいと思ったからである。また、日本とは異なる環境下で営まれている農業を体験し、アメリカの社会や異文化を理解することにより、視野の広い国際感覚が豊かな人になりたいと考えたからである。そのために、この短期留学プログラムに参加し、様々なことに挑戦し、多くのことを経験したいと考えていたからである。この様々な経験を研究室活動やさらなる専門分野の追求に活かし、今後の武器にしたいと考えていたからである。また、海外の農業や語学研修、日本とは異なる文化や生活などを総合的に経験することで自分自身の将来について改めて考える契機にしたいと考えていたからである。日本とは異なる環境で農業学習や英語研修をすることで、今後の人生の糧となるようなことを多く学んでいきたいと考えていたからである。2つ目は、高校時代の短期留学の経験を活かし、さらに自分自身をレベルアップさせたいと考えていたからである。短期留学を通して、海外という普段とは生活・文化・言語などが何もかも違う環境で改めて農業の重要性を考える良い機会を与えてもらった。研修では、異文化との交流を通じて国際的に広い視野を持つことの大切さも同時に学んだ。日本は何もかもが違い、全てのことに対して新鮮な気持ちで取り組むことができた。気候や食事の違いなど様々なことに驚き、戸惑いもあったが徐々にそれらについても理解を深めることで、その国ならではの奥深さや面白さを知ることができ貴重な経験をすることができた。高校時代の短期留学の経験を活かして、大学の講義の中や実習では学ぶことができない、大規模な海外の農業を自分の目で確かめ、今後の日本や北海道の農業のあり方について考えたいと思っていたからである。また、北海道の豊かな自然環境に身を置き、農業を総合的に学んでいるからこそ、同緯度地域で営まれている農業を学ぶことに大きな意味があると私は考えていたからである。

### 2. 目標達成のために現地で活動した内容

1つ目の目標を達成するために現地の方々に積極的に話しかけることを心掛けた。現地の方々はとても優しく私がすらすらと英語を話すことができなくとも最後まで理解しようと聴いてくれた。そのため、日常会話には苦労は感じられなかった。しかし、英語の講義の中では教授の先生方が専門的な用語で話されるため全ての内容を理解することは難しかった。私の英語能力の未熟さを痛感することができた。さらには、その人ごとによってニュアンスや話すスピードが違い聞き取りにくい場面があった。そのため、私は話している人の目を見て聴き理解するように心がけた。また、スーパー・マーケットやレストランなどではアメリカと日本との文化の違いを感じられる場面が多くあった。野菜は、日本では袋に入り包装されているがアメリカでは自分の好きな量を袋に詰めるというスタイルだった。また、日本より大きなハンバーガーやピザ(写真1)がありすぐにお腹がいっぱいにな

ってしまった。アイスクリームやクッキーは、とても甘く日本との味覚の違いに驚いた。このように、日本とは異なる文化や食生活を学ぶことができたので良かった。また、改めて日本食の素晴らしさについて考えることができたので良かった。2つ目の目標を達成するために私が現地で活動した内容は、アメリカの農業をじっくりと観察することである。講義の中で学んだのは、アメリカの乳牛における酪農業は増加傾向にあるということである。アメリカでの牛乳生産市場は業界のトップ50の農場が協力関係にあり、その市場の80%を占めている。ミシガン州の酪農業は、アメリカで2番目の大きさである。乳製品は、総現金収入の20%を超えており1番である。畜産業の現場は、広大な土地と牛が過ごしやすい気候であることから主にカルフォルニア州に存在している。同時にアメリカの牛肉産業において世界でも有数の生産国であり、“Beef Belt”と呼ばれる畜産業の盛んな放牧地帯が中心部のグレートプレーンズと呼ばれる広大な平地の部分に存在している。牛肉業界においてもTysonやJBSなど最大手4社における業界独占があり、その割合は80%以上にも及んでいる。アメリカの農業は、遺伝子組み換え植物が多く栽培されており、今後の研究では遺伝子組み換え作物の安全性などを検証していく必要があるのではないかを感じた。牧場見学では、現在私が学んでいる北海道の牧場より大きく私自身大変驚かされた。搾乳では、北海道の酪農家でもすでに導入されているが、あまり多くは導入されていない自動搾乳機(写真2)を用いて搾乳を行っていた。搾乳される乳牛たちが人間が並ばせなくても1列に並んでおり驚いた。自動搾乳機はまず、自動回転のブラシで牛の乳房の洗浄を行い、次に赤外線センサーによって乳房の位置を把握、吸着して乳を吸引していた。最終的に搾乳された乳は、1カ所のタンクに集められて、業者に出荷されるという仕組みだった。また、乳牛の首の部分にICチップのような物がぶら下げられており、牛の乳量や体調などが管理されており驚いた。このように、北海道に農業では味わうことができないアメリカの農業を学べることができたので良かったと感じている。また、私が現在学習している酪農業を実際の現場で学ぶことができたのでとても良い経験になった。



写真1. ピザ



写真2. 自動搾乳機

### 3. 目標達成度の自己評価

私自身、有意義で実り多き短期留学になったと感じている。アメリカの農業や文化などを総合的に学ぶことができたのはもちろんのこと英語能力の向上につながったので良かったと感じている。また、世田谷キャンパスや厚木キャンパスで学ぶ他学科の学生たちと一緒にこの短期留学に参加することで、他学科の学生の方とも積極的に交流を持つことができたので良かったと感じている。他学科の学生の日々の学習内容や普段の生活などを知ることができ、学ぶことが多くあった。さらに、慣れない環境下で、お互いを助け合いながら一緒に成長することができたのがこの短期留学に参加して良かったことだと感じている。オホーツクキャンパスでアメリカ短期留学に参加する学生は私しかおらず、留学に行く前は、仲良くできるのだろうかなどの不安要素が多くあったが、積極的にコミュニケーションをとり日がたつにつれて仲良くなれたので良かった。この留学経験を今後の生活に活かして、さらにレベルアップを目指していきたい。また、ミシガン州と私が現在住んでいる北海道網走市は同緯度地域であり、気候や農業形態を比較することができたので良かった。例えば、日本のサクランボは食用がメインで甘くて実が大きいのに対して、アメリカのサクランボはクッキーやサルサソースなどに加工する物が主に栽培されており、アメリカのサクランボを食べさせていただいたが、とても酸っぱく小さかった。また、アメリカの通常サイズのハンバーガーは、日本のハンバーガーの2倍ほどの大きさのものもあり、とても驚いた。さらには、交通ルールの高さに驚いた。私たちが、信号のない横断歩道で待っていると車は横断歩道の前で停車し私たちのような歩行者を渡させてくれた。日本では、歩行者優先のルールが低いがアメリカは高く驚いた。このように、留学に参加しなければ分からなかったアメリカならではの文化や生活を理解することができ、参加して良かったと感じている。

### 4. 今後の取り組み

私は、今回のアメリカ短期留学に参加して自分自身がやりたいとの再確認ができたと感じている。学内外の農業関連施設や研究施設を見学する中で農業に興味や関心を持つ人材の育成がしたいと感じた。私は、現在農業科の教職課程を履修しているので、将来は農業科の教員になりたいと考えている。教員という立場で、生徒たちに農業の魅力をしっかりと伝え、農業に興味を持つ多くの人材を育てたいと考えている。今回のアメリカ短期留学の経験を活かして、海外の農業の状況などを留学に参加したからこそ分かる現場のことを伝えていきたいと感じた。また、ミシガン州立大学の木内先生のお話でもあったように学生のうちに多くのことに挑戦し、視野を広げておくことが大切今後の人生に役立つとお話しされていたので、現在は無駄だと思うことにも積極的にチャレンジして今後の人生の糧にしていきたいと感じた。さらには、大学院に進学し畑作や酪農の知識のみならず、現場で活かすことができる実学的なことも学んでいきたい。そのためには、まず英語能力の向上に努め自分自身を高めていきたい。

## 5. 持って行って良かったもの

- ・包装米飯(サトウのごはん)
- ・インスタントの味噌汁
- ・そば、うどん、味の素
- ・箸
- ・電子辞書
- ・パソコン
- ・クレジットカード

## 用意したがいらなかつたもの

- ・バスタオル
- ・ドライヤー
- ・シャンプー、リンス、ボディーソープ

## 現地で使用した小遣いの金額

- ・約 5 万円

## 6. 次年度以降の参加者へ、事前に準備、勉強しておくべきこと

事前に勉強したほうがよいことは、英語である。英語の講義では専門用語や多くの英語を短時間で聞き取らなければならないので事前に英語の学習をしておく必要があると思う。また、ミシガン州の名産品や気候なども事前に調べておくと現地の方との会話が盛り上がって良いのではないかと思う。さらには、アメリカの学生は日本の文化や生活にとても興味深いと今回の留学に参加して感じたので、自分の言葉で日本について紹介できるようにしたほうが良いと感じた。今、自分たちが学んでいる学習内容や自分の住んでいる都道府県、家族構成、趣味などについても紹介すると会話が盛り上がったので事前に準備しておくと良いと感じた。ミシガン州の気候は日本より寒暖差があり、気候が変化しやすいので体温調節がしやすい服装が良いと感じた。

## 2019 アメリカ 短期留学報告書

農学部 デザイン農学科 2年 有吉星南

今回のアメリカミシガン州への留学の目的は大きく二つあります。一つ目はアメリカで行なわれている大規模な農業や研究を見て、土地にひろさや気候などによっての違いなど座学でしか学んでこなかつたことを実態に肌で感じて知りたいと思いました。そして、実際に授業を受けてアメリカの農業に対する考え方やまた、日本とは違った授業のスタイルを受けて参加型の授業やディスカッションを交えた授業などを体験したいとも思い参加しました。二つ目は英語力の向上についてです。去年の夏に語学留学としてカナダに行きました。そこで、実践的な経験を積むことができました。しかしそれと同時に、自分の足りなかつた部分というのも知ることができこの一年を通して克服できるように努力してきました。英語力の力試しとしても今回の留学の参加を決めました。

今回のアメリカミシガン州立大学への留学では主にミシガン州で多く作られているチェリーことや酪農のこと、その他ミシガン州でのローカルフードのことについて学びました。

私が特に印象に残っているのはトラバースシティへ行ったことです。現地に到着しすぐ二日後にトラバースシティというミシガン州の北部に位置するところへ行きました。ここは、ミシガン湖のきれいな水と豊かな緑に囲まれていて別荘地としても有名なところでした。この地域は綺麗な水と涼しい気候によってアメリカの中でも最大のチェリーの生産地でもあり、また夜と昼の気温の寒暖差からぶどうの生産の盛んに行なわれている地域でした。

最初は Black Star Farms Old Mission Winery というところへ行きました。そこでは、無農薬にこだわってつくられているぶどう畠がありました。ですので、ぶどう畠の隣に花を育てて、その花に虫を引き寄せることで防虫剤を使わなくても様々な工夫が見られました。日本では木になっているぶどうが上から垂れ下がっているのが多く見られますが、この地域ではつるを支柱に絡ませてカーテンのような形で栽培されているのが印象的でした。ここはワイナリーですが、施設の中にレストランがありそこで出されたサラダやピザというのはこの施設の中で作られたオーガニック野菜やこの地域で作られたものが使われており、地場産のものを新鮮に味わうことができました。



ワイナリー

そして、ミシガン州でも特に有名なチェリーについても学びました。実際にミシガン州立大学が研究のために使っている NorthWest Michigan Horticulture Research Center へいきました。ここでは 137 エーカーの広大な土地でチェリーやりんごなどの研究が行われており、農場の中を移動するのも徒歩ではなくトラクターで移動しながら説明を受けました。アメリカのチェリーは甘くなく酸っぱい味で、タルトなどの加工食品を作る際よく利用されていて、私が想像する日本のさくらんぼとは色や味、そして値段においても全然違うことを知りました。また収穫も日本ではさくらんぼを傷つけないように手作業で行われていますがアメリカでは機械で木を搖すって落として収穫していると知り改めて農場の規模の違いを感じました。

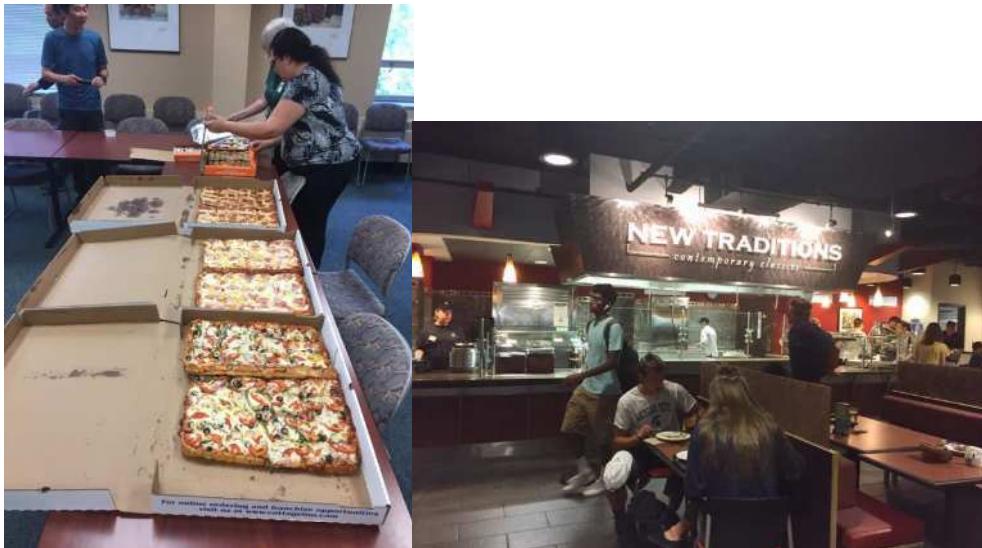


そして、トラバースシティへ行き特に良いなと感じたのは The Cherry Republic というミシガン州で作られたチェリーを使ったお菓子やワインなどが売られているお店です。休憩所とレストランとお店が一緒になっているような施設で、日本でいうと「道の駅」のようなもので地元のチェリーで作られたものが売られています。お菓子やジャムなどに加工して売られているので、例えば収穫時に傷がついてしまったチェリーでも捨てずに使うことができ、また他のものに加工することで付加価値がつきより高い値段でチェリーをうることができます。ローカルな食材を使って商品を売ることでその地域の宣伝などになりますし加工、販売もやっているので生産者に還元しやすいシステムを学ぶことができました。このことから、The Cherry Republic が地域の活性化につながるものだなと感じました。私はデザイン農学科で地方の活性化や 6 次産業化について学んだので実際にこのようなものを見ることができとても勉強になりました。



Cherry Republic

二週間勉強だけをしていたわけではなく、アメリカの文化に触れる機会もありました。特にピザとハンバーガーは二週間のうちどちらか一つは毎日食べていました。日本だとハンバーガーはマックの印象が強く安く食べられるというイメージかもしれません。しかし、アメリカのハンバーガー屋さんはパンがカリカリに焼かれていてそのパンの中に厚みのある肉とトマト、オニオングライなどが入っていてとても食べ応えがあります。休みの日にパーティーとした際ホテルのグリルで肉を焼いてもらいそれをハンバーガーにして食べた時の味は絶対に忘れないと思います。ピザに関しても、圧倒的に日本のより大きいのはもちろんですが、とても安く地元のスーパーで冷凍のピザを買って食べたりもしました。豚肉が載っているピザやすごく厚みのあるものなどほとんど毎日ピザを食べていましたが二週間飽きることはませんでした。お昼ご飯は学食券をもらったので MSU のキャンパス内にある食堂で食べていました。そこは、MSU の寮に住んでいる生徒が利用しているところで学食なのに食べ放題で種類も多く衝撃を受けました。MSU 内に 4箇所あり、ところによって食べられるメニューが違いました。ハンバーガーが食べられるところもあればラーメンのようなものを食べられるところもあり、全く飽きずに昼食を楽しめました。絶対と言っていいほど食堂のメニューにはポテトがあるので私はそれを気に入つてよく食べていました。また、一度中に入ってしまえば外へでるまでは何回でも注文して食べても大丈夫なので調子に乗つて 2品、3品食べてしまうこともありました。行きの飛行機の機内食から帰りの飛行機の機内食まで日本食は一切食べなかつたので、二週間存分にアメリカの食文化を体感しました。パンやオムレツの中にチーズが入つたり、「おやつだよ」と言ってくれるクッキー、ビスケットが想像以上に甘くて胃もたれすることが何回もありましたがそんなことも含めてアメリカの食文化を肌で感じることができました。



学食

今回の留学ではアメリカの農業、文化そして英語力の強化の全てにおいて自分のベストを尽くして取り組みました。初めの方は少し緊張と時差ボケでうまく話せなかつたりしたこともありましたが徐々に打ち解けていって、今回の留学のコーディネートをしてくださったロンダさんとアメフトの話で盛り上がったりまた、自由時間に何をしたら楽しいかなどをトークで引き出すことができました。二週間の中で様々な視点からミシガン州やアメリカのことを知ることができました。実際に牛の自動搾乳機を見学したり、トウモロコシや大豆の広い農場というのは日本ではあまり見ることはできないとおもいます。ミシガン州には広い土地ときれいな水があるので特に果物を育てるのには素晴らしい環境がありました。酪農から果物、野菜において全体的にアメリカの農業を見るることができました。また、多くの先生たちから講義を受け、それは英語での講義でしたがなんとか理解しようと努力しました。一度だけ MSU の生徒と一緒に授業を受けて、班ごとにディスカッションをする機会がありましたが、専門的なことを英語で表現するのは難しく 100%自分の言いたいことを表現することはできませんでした。

今回の留学では二週間英語で授業を受けたり、アメリカの農場を見学して、日本以外の文化やまた考え方というのを肌で感じることができました。ご飯を注文したり、買い物をする程度の最低限度の英語力というのは今回の留学で身につけることができましたが、やはり授業を受けたり、ディスカッションをするとなると早口で言っているところが何言っているかわからなかつたり、自分の伝えたいことが表現できなかつたりしてもどかしいと感じることが多々ありました。また、農業に関する専門的な単語やイディオムなどそもそもその語彙力も伸ばすことの大切さを感じました。これから、深く知識を得るためににはやはり語学力の強化というのは必要不可欠だと思います。なんとなくコミュニケーションが取れるというレベルからもう一つステップアップするためにも、今後も継続して英語の学習を

続けたいと感じました。そして、将来的には論文を読めるようになり、英語でのディスカッションもできるようになりたいです。二週間で様々な分野の先生から受けた講義をもう一度スライドショーのプリントを読み返し、自分の経験として確実にこれから学習の糧にしたいと思います。

持つて行ってよかったもの

- ・すぐに脱ぎ着できるようなジャンバー
- ・靴（二足）
- ・風邪薬
- ・電子辞書
- ・帽子
- ・インスタントの日本食

用意したがいらなかつたもの

- ・コンセントのアダプター
- ・タオル

現地で使用したお小遣いの金額

- ・現金は 300 ドル
- ・クレジットで 300 ドル

事前に準備、勉強しておくべきこと

- ・チップをどのタイミングで渡していくかが意外とわからなかつたです
- ・難しい英語というよりやバスやレストランで使うような定型文を覚えているとスムーズに注文とかができると思います
- ・アメリカンフットボールを見に行ったのでルールを知っていないと何が起こっているのかわからず困惑するとおもいます
- ・自己紹介する機会がとても多かったので自分が何について勉強しているのかを含めた自己紹介がしっかりできることは必須だと感じました。
- ・アメリカの農業のことや文化のことなど下調べがないと講義を受けた時に早い英語で喋られると全然理解できないことがあるとおもいます。流石に予備知識ゼロのままで講義を 100% 理解するのは難しいとおもいます。
- ・話のネタなどを事前に考えておくと現地の生徒とともに盛り上がって話すことができると思います。その時に現地で何が流行っているかなどをリサーチするといいと思います。
- ・水以外は全て砂糖が入っている飲みものしかないので大変でした。